

大きく変わる学校

コース制・新カリキュラムで世界へ

聖ドミニコ学園中学校



ドミニコ会は13世紀に創設されたカトリックの修道会で、1950年には目黒区にも修道院が設立されました。1954年に聖ドミニコ学園として小学校を、1962年に中学・高校が開校して世田谷区の現校地に移転、幼稚園から高校までを擁する学園です。中学・高校は女子校として完全中高一貫の教育を行っていますが、新学習指導要領に先駆けて「21世紀型教育」を実践、来春から「イマ ジョンコース」を新設、従来のコースは「グローバルスタンダードコース」として、2コース制となります。

1. ドミニコ教育のさらなる発展を目指して

聖ドミニコ学園では中1から英語とフランス語が必修になっているなど、早くから国際性を意識した教育を実践してきました。21世紀に入り、「経済成長よりもサステナビリティ(持続可能な社会)」、「出世よりもコネクト(人と人のつながり)」、「機能優先のシステムよりもデザイン(思考や概念を組み立てて表現)」といった新しい価値観が広がっています。こうした社会に巣立っていく生徒たちには、大人になってからも国際社会でも通用する、学びの姿勢や深い教養が求められます。そこで、来春からカリキュラムを大きく変更します。

2. ドミニコ学

新カリキュラムの柱の1つは独自教科の「ドミニコ学」です。アカデミックスキルの獲得を目的として、ICT機器もフルに活用し、思考、エッセイ、プレゼン、議論、探究の技法を学ぶことで、これからの学びの土台として思考力をトレーニングしていきます。

3. イマ ジョンコース

オックスフォード、ケンブリッジといった世界ランキング100位以内の大学を進路目標とする新設コースです。イマ ジョンとは、英語で他教科も学ぶことで「英語漬けの環境」を作り、各教科内容も英語とともに身に付ける学習法で、英語はもちろん数学や理科も英語での授業です。中1～高1で英語による授業を2000

時間確保、ネイティブ教員が従来型の授業とは異なる、発想や創造性に重点を置いた授業を行います。日本人教員もペアで担当し、チームティーチングで教科内容の理解不十分をカバーします。高3まででCEFR(世界標準の英語力指標)C1レベル(英検1級相当)の英語力を身に付けます。

4. グローバルスタンダードコース

従来からのコースも授業時間数を45分×週35時間に拡大、各教科でPBL型を多用します。PBL型は、教師が一方向的に知識を伝えるのではなく課題を提起、生徒たちは調べ、議論し、解決法を探る中で知識や技能を身に付ける学習法で、クリティカルでクリエイティブな学びの姿勢を養う、次期学習指導要領で重視されているものです。少人数制を生かしてフォローアップも充実、早慶上智東京理科大などの世界ランキングに入る国内89大学が目標です。CEFRでB2レベル(英検準1級相当)の英語力を身に付けます。

5. 2019年度入試について

1回2/1AM2科または適性(作文+算数基礎)、2回2/1PM2科4科、3回2/2PM2科または英語イマ ジョン入試(英語でのグループワークや問答など)、4回2/4AMアクティブラーニング入試(ディスカッションや発表など)、各回ともイマ ジョン・グローバルスタンダードの両コース募集・出願では両コース併願可、新タイプの入試の詳細は9月以降の説明会で公表します。

大きく変わる学校

「新しい進学校のカタチ」に向けて

桐蔭学園中等教育学校



桐蔭学園は 1964 年に創立された進学校で、中学入試では男子校である中等教育学校と中学校男子部、中学校女子部理数コース・普通コースがありました。男子部にはさらに高校から理数科が設置されていて、高校 3 年(中等 6 年)の志望大学別のコース制授業が男子部・女子部合同、他は別学の「男女併学」を実施している学校でした。スポーツも活発で「ハドな文武両道」のイメージがある同校ですが、今後の社会で求められる生徒の育成に向けて教育体制を大幅に刷新、2019 年 4 月に中学入学生を中等教育学校に一本化して共学化、高校入学生とは完全に分ける形で新たなスタートを切ることになりました。

1. 自ら考え判断し行動できる子どもたち

2014 年、桐蔭学園の創立 50 周年を機に、次の 50 年に向けて、桐蔭学園のあるべき姿を問い直しました。進学校は、とかく大学入試だけが目的化しがちですが、大学入試は大切でも、通過点の 1 つです。成人して社会で活躍する時になっても、世界に目を向けて学びを一生継続していける力を育てることが人間形成の上で必要です。そこで、学園のあるべき姿を、「自ら考え判断し行動できる子どもたち」を育てる学園であると定め、「アクティブラーニング型授業」、「探究」、「キャリア教育」を教育の 3 本柱に据えました。

2. 「アクティブラーニング型授業」

「アクティブラーニング」は近年流行していて、各校で生徒同士の協働作業やプレゼンテーションが増えています。知識や正しい理解が伴わない協働作業は中身がありません。ですから従来からの講義形式授業も重視し、「生徒自身の教科内容の定着」「生徒同士の協働作業による新たな気付き・学びの深まり」「深まった知識や応用力・活用力を自分自身に定着させる」の一連の流れの中にアクティブラーニング型授業を位置付けています。このサイクルの繰り返しで生徒個人が成長し、社会で活躍する力に繋がります。

3. 「探究」

学校独自の科目として「未来への扉」と名づけた探究を実施します。「自分自身で学び方を探っていく」こ

とを通じて、生涯学び続ける力を身に付けるもので、第 1 ステップでは、課題を設定する、調べる、まとめる、発表するといった、探究活動のスキルを身に付けます。第 2 ステップで世界に目を向け、その実情をもとに、多角的な視点から議論を積み重ねていきます。模擬国連活動を授業に取り入れ、各国の立場に立った考え方、議論を通じての目標達成の方法などを身に付けます。第 3 ステップは、自分の関心に基づいてゼミを選択、探究を進めて論文にまとめます。「型」にとらわれることなく、学びを深めることを目指します。

4. 「キャリア教育」

職場訪問、大学の研究室訪問、先輩たちとの対話、そして何より日常的に自分の考えや夢を言葉にして相手に伝え、友人の考えや夢を聞くことで、今の自分と将来の自分をつなぐための具体的な計画を立案、実行していきます。明確な目的をもって学んでいく意識を持つことで、「自分自身の人生をデザインする力」を育成します。

5. さらに...

グローバル教育、数理教育、放課後の芸術・文化活動などにも従来以上に取り組んでいきます。

6. 2019 年度入試について

1 回 2/1 午前 4 科または A L 入試(総合思考力・算数基礎・面接)、2 回 2/2 午前 4 科・2/2 午後国算または英算、3 回 2/3 午前 4 科または算数選抜入試です。

大きく変わる学校

共学化で「チャレンジする学校」へ

武蔵野大学中学校



武蔵野女子学院は、1924年に東京・築地本願寺内に創設され、1929年に現在の西東京市に移転した、仏教主義による女子中学・高等学校です。1950年に短大、1965年に大学を併設、総合学園に発展しました。大学に薬学部が開設されると、学園全体で各分野の実学を学ぶ場のカラーが強くなってきて、併設の高校も現在は理系医療、国際交流、文系創造、総合進学の4コース制になりました。そして次のステップとして、中学は2019年度から、高校は2020年度から共学化し、校名も武蔵野大学中学校・高等学校に改称することになりました。大阪府立箕面高校を全国有数の海外大学進学校に育てた日野田先生を校長に迎えて、新たな学校がスタートします。

1. キーワードはグローバル&サイエンス

急速に進むグローバル化、英語4技能などの教育改革、雇用問題、シンギュラリティ(AIが人間の知能を超える技術的特異点)など、社会を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。こうした社会に巣立っていく生徒たちは、大人になったら、今まで見たことも聞いたこともない課題に直面し、その解決方法を考え出すことが期待されます。そして、その期待に応えられる実力を持った人が世界で活躍できる人材になります。ですから本校では、「世の中の多様な価値観を受け入れ、そこに『自分色』を足していく力を育てる教育」として「グローバル」を、「客観的なデータを分析し、仮説を立て、それを論理的に検証する力を育てる教育」として「サイエンス」をキーワードとし、この2つを軸に、新時代に求められる創造力、思考力を育て、社会で活躍できる人材を育成することにしました。

2. 多様な価値観を受け入れるための共学教育

世界には多様な価値観があります。新時代に活躍するには、まず多様な価値観を受け入れ、それを土台に考えていく必要があります。思春期を迎える中学生にとって、一番身近な多様性は、男女の考え方、受け止め方の違いでしょう。そこで、男女混合クラスの共学教育に転換します。

3. 英語教育について

コミュニケーション手段としての英語を徹底的に鍛えます。軽井沢のインターナショナルスクールの立ち上げに参画した方々と協力・連携して、「やればできる気持ちを作る」「知識・技術を学ぶ」「繰り返して上手くなる」の流れで4技能を切り口とした「世界で通用する本物のスキル」を学びます。

4. サイエンス教育について

本校では理論と仮説、仮説・検証を毎週行うサイエンス探究授業を行います。大学附属の強みを生かし、大学の先生による天体観測会や、武蔵野大学薬学部訪問など、高度で専門的な学びを実践することで、知識を知恵に昇華させるとともに、ロジカルシンキングを身に付けていきます。

5. 進路について

本校はあくまでも中高一貫校ですが、高校から留学したい、徹底的にサイエンスを極めたい、といったチャレンジは積極的に応援していきます。

6. 2019年度入試について

本稿〆切時点ではまた予定ですが、2019年度は1回2/1AM2科60名、2回2/1PM4科および英から2科選択40名、3回2/2AM 算または英20名、思考力入試2/2PM 思考力問題10名、プレゼン入試2/4AM プレゼン10名の予定です。

大きく変わる学校

日出中学校が日本大学の準付属校化

目黒日本大学中学校



日出中学高等学校は1903年に高輪裁縫学校として開設、1919年に目黒に移転、1921年に日出高等女学校、戦後は新制の日出女子学園中学高等学校になりました。芸能コースがあって、著名な芸能人の母校としても知られています。長らく女子校でしたが、2005年に高校、2006年に中学校を共学化して現校名に変更、2017年からは高校に特進・国際コースを設置するなど改革を進めており、その一環として2017年12月、日本大学と準付属契約を締結しました。2019年度から校名を「目黒日本大学中学校・高等学校」に変更、日大グループの学校として新たな一歩を踏み出すことになりました。なお、高校は全日制の他に通信制もありますが、この記事での紹介は中学校・全日制高校とします。

1. 日大の付属校

日大には従来全国に25校の付属高校・中等教育学校があり、目黒日大は26番目になります。付属校には歴史的な経緯から、「正付属(日吉の日大中高や日大〇〇の名称)」、「特別付属(日大第一、第二、第三、千葉日大第一)」、「準付属(〇〇日大の名称)」に分かれ、目黒日大は経営が日出学園で準付属になりますが、日大への内部進学にあたっては、原則として正付属・特別付属・準付属で区別はなく、同じテストを実施、条件も同じです。

2. 中高一貫の教育体制

中高6年間を、中1・中2の基礎充実期、中3・高1の実力養成期、高2・高3の応用発展期に分けたカリキュラムを編成、中学3年間の学習内容はできるだけ中2までで終了し、中3から高校内容の先取りに入ります。高1では国公立大・医歯薬系進学を目指すS特進クラスと、ハイレベルで日大を含む多様な進路を目指すアドバンスクラスに分かれる計画です。S特進クラスは、目標の通り国公立大・医歯薬系進学に向けての学習を進めますが、アドバンスクラスも高度な探究学習を進めます。

3. SSHとSGH

SSHはスーパーサイエンスハイスクール、SGH

はスーパーグローバルハイスクールで、ともに高度な探究学習を行う、文部科学省の指定校です。都内では早稲田高等学院や都立小石川中等などがSSHの、渋谷教育学園渋谷や青山学院などがSGHの指定校です。目黒日大も2019年度の中学入学生が高校1年になる2022年度にSSHとSGHのダブル申請を計画しています。高2・高3のアドバンスクラスではSSH・SGHの高度な探究学習で実力を養成するほか、探究の成果で日大だけでなく、難関大学への進学者も出るでしょう。内部進学率は当面、高校からの入学生とあわせて6割程度になる見込みです。

4. 高校からの入学生

国公立・難関私大・医歯薬進学を目指す特進クラス、日大の内部推薦を前提とするN進学クラス、スポーツや芸能活動と学業の両立を図るスポーツクラス・芸能クラスが設置されます。基本的には中学入学生とは別指導ですが、内部進学生でこうしたクラスへの進学を希望する場合は、学校との相談になります。

5. 2019年度入試について

2/1午前2科4科選択または適性、2/1午後算数(特待)または適性(特待)、2/2午前2科4科選択、2/2午後2科、2/4午後2科。その他帰国子女入試を実施。

大きく変わる学校

YFG未来ビジョンで男子も募集

横浜富士見丘学園中学校



男女共同参画社会に生きる生徒たちには新たな教育カリキュラムや教育環境が求められています。横浜富士見丘学園中学校高等学校(YFG)は1923年の創立で、長らく女子校として教育活動を続けてきましたが、時代の要請を踏まえて、まもなく迎える創立100周年を機に、「21世紀型教育イノベーション」を進めることになりました。その一環として、別学校の良さと共学校の良さの両方を求めて男子クラスを設置、2019年度から男女別クラス編成による共学化を実施することになりました。

1. 共学と別学のメリットをともに生かす

男女共学は、男女の考え方・受け止め方の違いやさまざまな価値観に日常的に触れることで、他者を理解し、協働する力、他者を尊重する心を育むことがメリットといわれます。また、男女別学では、異性の目を気にせず、のびのびとした学園生活が送れること、男女の違いを生かした授業内容で効率的に学習できる面がメリットとされています。YFGの共学化ではこの両方のメリットを追求し、多様性を認め合う共学教育の場として、部活動・学校行事などを位置づけ、授業は原則として別学を維持して、学習に集中できる環境を維持することにしました。ただし、高2・高3の理系進路については、社会に進出する「理系女子」として、男子に負けない実力の養成が求められますので、高2からは男子と合同クラスとし、切磋琢磨する環境を整えます。

2. YFG未来ビジョンのクラス編成

中学は男子が理数特進クラス1クラスの募集、女子は少人数3クラスの募集で、高校1年の男子は内部進学生に高校入学生を加えた1クラス、女子は高校入学生を加えてグローバル&サイエンス、スタンダード各2クラスずつに編成、女子のスタンダードクラスはそのまま高2・高3も私大文系クラスとし、グローバル&サイエンスクラスのグローバル希望者は女子文系特進クラス、サイエンス希望者は男子とともに男女混合の理数特進クラスとします。

3. 共学の教育活動

総合学習やロングホームルーム、校外学習や学校行事などの活動は男女一緒の活動です。クラブ活動は、当面は男子が少数派ですから、既存のクラブで男子を受け入れる予定です。ただし、男子クラスは週3日7時間授業なので、活動時間が多少短くなるかもしれません。生徒会活動は男女一緒です。

4. 理系進路について

東京理科大学と2018年度から教育連携を進めています。2017年度は「理系の学び講座」を実施、特に第1回は同大学特任副学長の向井千秋先生が講師を務めました。女子の理系進路は医歯薬、看護など、実学系が話題になりますが、こうした「枠」を取り払う取り組みです。2019年度以降は男子の入学で、こうした動きがさらに活発になっていくでしょう。

5. 英語教育について

英語のコミュニケーション能力は今後のグローバル社会を生きるために必須です。中1・中2はネイティブの副担任が配置されるほか、中3では男子がアメリカ西海岸、女子はオーストラリア研修が必修で、生きた英語力を養成します。

6. 2019年度入試について

本稿〆切時点では検討中ですが、2019年度は前年度の「午前が2/1~2/4、午後が2/1・2」を軸に、2科4科・英語選択入試を実施する予定で、男子は他に算数1科入試も実施予定です。